

分野:器官系統病態学

主科目 副科目	代謝・糖尿病学 Metabolism and diabetes	DM_1404	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	------------------------------------	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
-					
-					
溝口	◎原 眞純		磯尾 直之		高井 敦子 (助手) 竹内 英之 (助手)

	代謝・糖尿病学Ⅰ (1年次)				代謝・糖尿病学Ⅱ (2年次)				代謝・糖尿病学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概 要	<p>指導医とともに病棟患者を中心とする内分泌代謝疾患の診療に従事し、症例を通じて内分泌代謝全般にわたる知識と診療技術の習得をはかる。</p> <p>救急や一般内科診療、他科コンサルトへの対処などを通じて、日常臨床の中で遭遇する内分泌代謝的問題についても経験する。</p> <p>カンファレンスでの討議を通じて臨床推論やプレゼンテーションについて学ぶ。</p> <p>講義では糖尿病をはじめとする内分泌代謝疾患の基本的な知識を紹介し、基礎医学とのつながりについても学ぶ。</p> <p>内分泌学会・糖尿病学会の専門医ガイドブックを通読し、重要なテーマを選んでまとめを作成して抄読会で発表し、指導医の批評を受ける。</p>				<p>「代謝・糖尿病学Ⅱ」の講義・演習・実習を継続しながら、さらに以下のことを学ぶ。他科コンサルト当番を経験し、周術期の血糖コントロールや妊娠糖尿病の出産までの管理を経験する。</p> <p>内分泌疾患における各種の負荷試験を経験し、結果や意義の解釈と記載法について学ぶ。</p> <p>代謝疾患では糖尿病教室に講師として参加し、療養指導の経験を積む。当科で進行している臨床研究・基礎研究に参加し、成果について国内または海外の学会で発表する。</p> <p>カンファレンスや抄読会において検索した文献を発表し、論文や研究に対する批判的吟味の経験を積む。</p>				<p>「代謝・糖尿病学Ⅲ」の講義・演習・実習を継続し、さらに以下のことを学ぶ。</p> <p>専門外来を担当し、入院中に経験した症例のフォローアップから、紹介患者への対応、初診患者の評価についても学ぶ。</p> <p>負荷試験や画像診断を含めた内分泌疾患に対する検査の計画を立案し、実施する。初期研修医や1・2年次の大学院生を指導し、カンファレンスや論文抄読会でもモデレーターとして中心的な役割を務める。</p> <p>1年次、2年次の専門医ガイドブックによる学習を助け、まとめの作成をスーパーバイズする。</p>			
到達目標	<p>①入院患者の診察・検査結果について、指導医の助言の下適切な解釈ができる。</p> <p>②カンファレンスで症例の問題点について明快なプレゼンテーションが行える。</p> <p>③日当直業務の中で、内科全般にわたる初期診療に対応できる。</p> <p>④図書館やネットを利用して必要な論文を検索できる。</p> <p>⑤基礎・臨床医学論文を読んで要旨を説明できる。</p>				<p>①他科コンサルト症例を通じて、周術期や周産期の内分泌疾患の病態と管理を理解する。</p> <p>②栄養指導や糖尿病教室などの療養指導に参加する。</p> <p>③基礎・臨床研究のいずれかに携わり、成果について国内または海外の学会で発表する。</p> <p>④研究論文について批判的吟味を行い、カンファレンス、抄読会で発表できる。</p>				<p>①1科目以上の関連領域(副科目)を履修する。</p> <p>②専門外来を担当し、代謝内分泌疾患全般について、専門的な見地で診断・治療計画を立案できる。</p> <p>③初期研修医や1・2年次の大学院生を指導し、診療チームの統率を行える。</p>			
事前事後学修	<p>内科専門医取得を目指して一般診療もおろそかにせず、日常の疑問をUpToDateやPubMedなどの信頼できるソースからの情報で解決する習慣をつける。1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。抄読会には1回あたり3時間の準備が必要。</p>				<p>主要な専門雑誌を閲覧し、review記事などで内分泌代謝疾患全般に対する知識を深める。</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。抄読会には1回あたり3時間の準備が必要。</p>				<p>自身の研究と関連した論文を検索して精読し、評価する。</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。抄読会には1回あたり3時間の準備が必要。</p>			
評価方法	<p>受講態度(発表、課題提出) 50%</p> <p>レポート 30%</p> <p>学会・研究会発表 20%</p>				<p>受講態度(発表、課題提出) 50%</p> <p>レポート 30%</p> <p>学会・研究会発表 20%</p>				<p>受講態度(発表、課題提出) 50%</p> <p>レポート 30%</p> <p>学会・研究会発表 20%</p>			

■主な演習(講義・実習含む)

	代謝・糖尿病学Ⅰ (1年次)	代謝・糖尿病学Ⅱ (2年次)	代謝・糖尿病学Ⅲ (3年次)
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
溝口	月 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 超音波検査・運動負荷心電図検査	月 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 超音波検査(腹部、頸動脈、甲状腺)	火 曜日 15 : 00 ~ 16 : 30 内分泌代謝カンファレンス
	火 曜日 17 : 30 ~ 18 : 30 内分泌代謝疾患の基礎と臨床	火 曜日 15 : 00 ~ 16 : 30 内分泌代謝カンファレンス	火 曜日 15 : 00 ~ 16 : 30 内分泌代謝専門外来
	木 曜日 15 : 00 ~ 16 : 30 内分泌代謝カンファレンス	火 曜日 17 : 00 ~ 18 : 30 内分泌代謝疾患の基礎と臨床	火 曜日 17 : 00 ~ 18 : 30 内分泌代謝疾患の基礎と臨床

教科書・参考書

糖尿病学会専門医研修ガイドブック、内分泌学会専門医研修ガイドブック

その他履修上の注意事項

在学中は、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本動脈硬化学会の総会に参加し、一部で演者として発表も経験する。地域医療やクリニックでの外来診療の経験を希望する場合は、非常勤講師(糖尿病専門医)の施設での実習も可能である。専門家でありながら総合的な視点も有するプロフェッショナルな内科医であり、その活動の中で生じた疑問を学問的に探求できるフィジシャンサイエンティストとして活躍する人材を養成したい。試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	肝臓免疫代謝学
	共通科目	プライマリ特論

関連する専門医資格

認定内科医(内科学会)、動脈硬化専門医(動脈硬化学会)、内科専門医(内科学会)、糖尿病専門医(日本糖尿病学会)、内分泌代謝専門医(日本内分泌学会)

キャリアパス(モデルコース)

